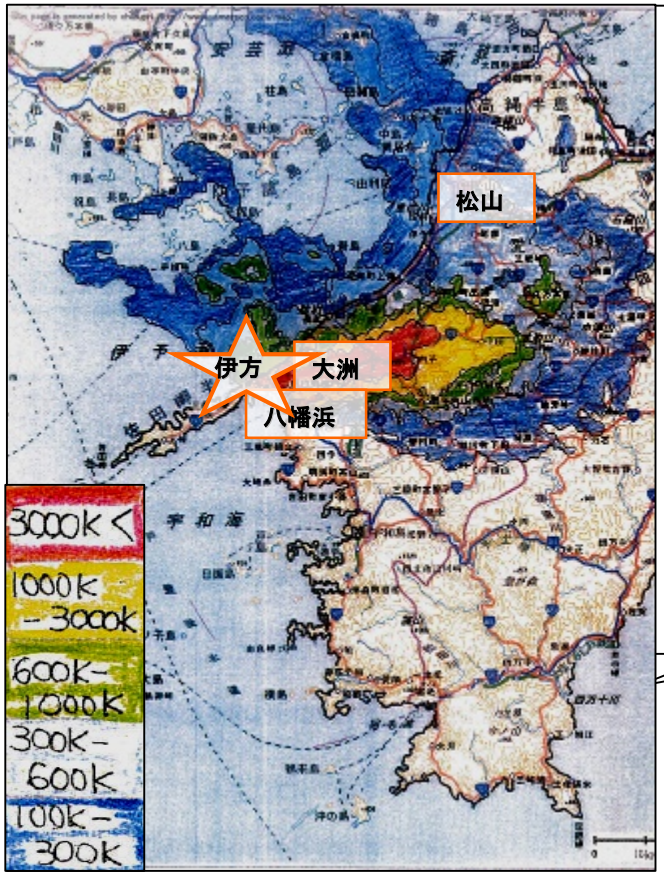
①伊方で福島のような事故が起きたら



▲福島第一原発から80km圏内の地表面へのセシウム134、137の沈着量の合計
（文部科学省第4次航空機モニタリング結果）を伊方原発を中心に重ね合わせた地図

☆チェルノブイリ原発事故では…
移住の権利ゾーン　185～555 キロベクレル／㎡
移住の義務ゾーン　555 キロベクレル／㎡超

汚染がどのように広がるかは風向きや地形などの条件によって変わります。

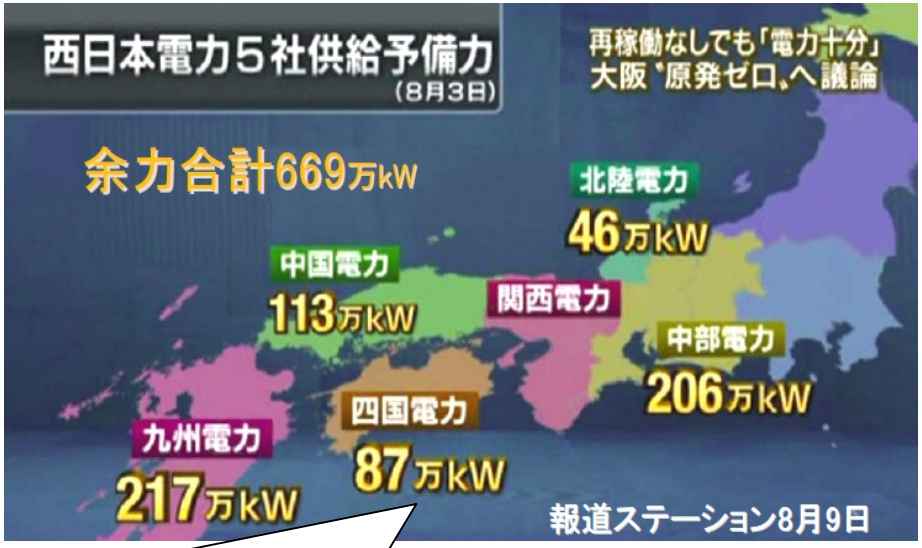
福島の実際の被害を見れば、佐田岬半島をはじめ、近隣自治体、場合によっては松山まで居住できなくなります。

瀬戸内海、四国山脈の水源が汚染され、四国の経済・産業基盤は壊滅してしまいます。

南海トラフの想定震源域が拡大され、伊方での直下地震も考えられます。それなのに、国も県も安全審査指針・防災対策・避難計画の見直しや整備が出来ていません。

大飯原発も！

②伊方原発とめても電気は足りた！



今夏の四国電力の最大消費電力は 526 万 kw（８月７日）でしたが、伊方原発が全て停止していたにもかかわらず、供給予備力がありました。

原発を直ちに止めても、火力＋水力＋民間企業からの他社受電＋他の電力会社からの融通※で日本の電力需給はすべて賄うことができます。（※四国への送電網は 260 万ｋｗ分）

また、節電にいちばん貢献しているのは、日中の業務・産業用のピーク電力消費の削減です。

大飯原発を再稼働させた関西電力は、2012 年 4～9 月連結決算で過去最大の赤字（1250 億円）を出しました。電力会社は業績悪化を避けるため、安全をないがしろにしてでも原発を動かそうとする実態が明らかになっています。

③子どもや孫たちに原発のない町を！

原発は、事故を起こさなくても、通常運転中に大気に放射能を出し続けます。原発のあった土地はぬぐいされない放射能で汚染され、これから何万年、何十万年も放射能とつきあわなければなりません。大量の海水を二次冷却水に使い、海をあたため、放射性物質を垂れ流し、生態系を壊しています。

きれいな空気、豊かな海と大地は、子どもや孫たちに生きる力と糧をもたらしてくれる、かけがえのない宝です。身の丈に合った、住民が心豊かになる行政・財政運営をすれば、原発を止めても町の財政が悪化することはありません。

伊方町住民の６６％－「原発いらない」

今年、市民団体が伊方町と松山市住民に実施したシールアンケートでは、伊方町の６６％、松山市の７５％の住民が「原発いらない」と答えています。「３・１１」の東日本原発大震災をうけて、全国各地でたくさんの人々が立ち上がり、「原発ＮＯ！」の声をあげています。

ふるさとに安心して暮らせることはお金にかえられない宝です。みんなで知恵と力を出し合って、子どもや孫たちのために、原発にたよらない暮らし、雇用、社会をつくっていきましょう。

④１１月１１日（日）第２６回伊方集会

＜＜プログラム＞＞

１０：００「八幡浜・原発から子供を守る女の会」
伊方ゲート前行動に合流
参加者からのアピール・タイム
１１：３０　四国電力へ申し入れ
１２：００‘イエローカード’メッセージ
黄色い布でヒューマンチェーン
１３：００　松蔭地区公民館で交流会
～　伊方原発建設反対から４０年…原発から１０ｋｍ圏内に住み、反対運動を続けてこられた近藤誠さん、斉間淳子さんを囲んでの交流会です。
１６：００

※松蔭地区公民館（八幡浜市民図書館の近く）
〒796-0088　八幡浜市 168－1　中央
電話番号　0894－24－1130

参加大歓迎！

主催：原発さよなら四国ネットワーク

「原発さよなら四国ネットワーク」は、１９８６年のソ連（当時）のチェルノブイリ事故をきっかけに、原発を止めよう、無くそうという思いを共有する有志が立ちあげた市民の集まりです。愛媛県の伊方原発を含め、全ての原発の廃炉を求めて、街宣、議会への請願、講演会の開催、市民パレードなどの活動をしています。（ホームページもご覧ください。）

原発さよなら四国ネットワークホームページ：www.genpatsu-sayonara.net

連絡先：大野（TEL / FAX089－933-4237　携帯 080－5662－6207）
郵便振替：01650－4－41986